

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所あにまーと				公表日	8年 3月 16日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		家具や備品のスリム化し、利用人数や活動内容によって都度レイアウトを整えている。	他の空きスペースを一時的に活用したり、野外で活動を行ったりして、活動が妨げられないようスペースの確保に努める。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9			法令上の配置基準は満たしているが、下肺職員の増員を検討していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		視覚的な手掛かりを用いて、玩具や絵本、ロッカーなどの場所が子供にとってわかりやすくなるよう、環境設定を行っている。	衛生面に配慮し、日々丁寧な清掃を行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		衛生面に配慮し、日々丁寧な清掃を行っている。	清潔で心地よく過ごせる環境を維持できるよう、定期的な消毒や喚起を行い、衛生管理に努める。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		パーティションを使用している。	集団活動が難しい場合や気持ちの切り替えが必要な際には、室内店と矢部室などの個別スペースを提供していく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	1	業務改善が必要な場合は職員間で話し合い、改善につなげている。	PDCAサイクルを意識して支援を行って行く。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	年一回保護者アンケートを実施し、集計後職員間で共有し、業務改善に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	3	申し送りノートを活用して、業務改善につなげている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		9		第三者評価は行っていないが、今後必要に応じて検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		外部で開催される研修に積極的に参加している。	職員が幅広い研修に参加できるよう、方法提供や参加しやすい環境づくりに努めている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		日々の活動の中で子供一人一人のできることなどを観察し、その子の課題やもともと伸ばせる長所などを分析し、計画の作成に努めている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		支援計画の更新時期に合わせて担当の職員にも聞き取りを行い、計画について協議を行っている		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		支援計画は職員間で共通理解が持てるよう、申し送りノートなどを通して共有している。	今後も継続して支援の統一を図り、計画に沿った支援を得ち供していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		標準化されたアセスメントツールは用いていないが、日々の行動観察などを行い、職員間で状況確認をしている。	現在は日々の行動観察を通して子供の状態を把握しているが、今後は標準化されたアセスメントツールの導入も検討していく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		放課後等デイサービスガイドラインを踏まえ、5領域に沿った項目をバランスよく設定している。支援内容については、分かりやすい言葉で表記するよう努めている。	支援目標の設定に当たっては、ご本人・ご家族・職員間でのすり合わせを大切にし、共通理解の下で支援を行うよう努めていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	4			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		子供の様子を見ながら、新しいプログラムと継続的なプログラムを柔軟に取り入れている。今後も状況を適切に把握し、興味を持って取り組める内容を工夫していく。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		個別活動と集団活動のバランスを意識しながら、子供一人ひとりに応じた支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	1	申し送りノートを活用して、子供の状況や送迎予定を確認している。	チームで連携した支援を行うために、情報共有を意識して行っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9			ご自宅までの送迎によりスタッフの戻る時間がばらばらの為、難しい。基本的に申し送りノートで行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		日々の活動の中で子供一人一人のできることなどを観察し、その子の課題やもっと伸ばせる長所などを分析し、計画の作成に努めている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	1	ガイドラインに示されている「4つの基本活動」を踏まえ、各活動バランスよく取り入れられるよう努めている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	1	余暇活動やおやつ選択といった機会を意図的に設けることで、経験を通じて自ら判断し行動できるよう支援している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	1	子供の支援に一番関わりの多い職員が参加している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	1	送迎の際に学校の先生と話し、子供の様子や支援に必要な情報を適宜共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9			現段階では情報共有→連絡等の必要性は低いので、積極的な情報交換は行っていないが今後必要に応じて対応していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9			現段階では情報共有→連絡等の必要性は低いので、積極的な情報交換は行っていないが今後必要に応じて対応していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	9		相談員の方に電話にて、子供たちの家庭の様子などを聞き、連携を図っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	4	今後、必要に応じて検討していく。	子供やご家族の意見を伺ったうえで検討する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	4	管理者が出席している。協議会での内容は職員間で回覧し、情報共有をしている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		ご家族と共通理解を深めるために、日頃から円滑な関係づくりを意識し、伝え方にも工夫をこらすことを心がけている。	ご家族の気持ちに寄り添いながら、丁寧に話を聞くことを心がけ、信頼関係の構築に努めていく
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	4		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		契約時には書面と一緒に確認しながら、わかりやすい説明を心がけている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		日々の活動の中で子供一人一人のできることなどを観察し、その子の課題やもっと伸ばせる長所などを分析し、計画の作成に努めている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		ご家族からの相談にははいねいに耳を傾け、内容に応じた適切な対応やサポートを心がけている	今後も迅速かつ柔軟に対応できるよう心がけていく

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4	5		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		苦情対応については、体制を整え、適切に対応できるよう努めている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		活動内容や行事予定、連絡事項などを掲載したおたよりを毎月作成・配布している。また、SNSについては、ホームページを活用し、定期的に情報発信を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9			今後も取り扱いに十分留意していく
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		意思疎通がスムーズに行えるよう支援方法を工夫し、柔軟な対応を心がけている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	3		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	1	月に一回避難訓練を行うと共に、より安全に避難するためにはどうすればよいか別途話し合いを行っています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9		契約時や面談の際に、健康管理に関する情報を把握し、その内容を職員間で共有している	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		契約時に食物アレルギーの有無を確認し、書面に記録したうえで職員間で共有している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		安全計画を作成し、職員間で情報共有することで、子供が安心して活動できる環境づくりに取り組んでいる。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		事業所のお便りの配布を通して、安全確保に関する取組内容などを就て得ている。	安全計画の取り組みについて、ご家族とも連携が図られるよう、お便りなどを通じて周知していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		ヒヤリハット報告書を共有し、必要な対策を検討することで、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		職員が外部で実施される虐待防止研修に参加し、その内容を他の職員にも共有することで周知徹底を図っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9			現時点では身体拘束に該当する事案はないが、今後必要とされる場面が生じた際には、身体拘束の適正化の為の指針に則り、適切な対応を行う体制を整えている。	